

私は、平和な世界とは相互理解と対等な関係を基盤とした世界だと考えます。

この二つの指標を達成するには、人々が互いを歴史や人種、外見などで判断するのではなく、相手との対話を通して内面で判断するという方針の教育が必要です。

私が在住しているアメリカ合衆国の特色としては人種やセクシャリティにおいて多様性に富んでいるということです。ここでの経験は、先述した考えを深めるきっかけとなりました。私が在籍する現地校には、様々な背景を持つ生徒が集まっていました。人種の違いはもちろん、信仰する宗教や家庭環境の違い也多岐にわたっていました。授業のディスカッションでは、時に価値観の違いから意見が衝突することもありましたが、そのような場面でも教師は、「異なる意見を排除するのではなく、まず耳を傾けること」を強調していました。そこで私は争いは平和を乱すのではなく反対に、あいてとの対話を促進しさらなる理解を深め平和へとつなげられるものだとして理解しました。

しかし、そういった教えがすべての生徒に伝わっていないのもまた事実です。

「英語が喋れないアジア人」といったレッテルを貼られた私は一部のクラスメートからいじめを受けることもありました。理由は明確です。私たちは互いを理解しあえていなく、彼らが当たり前のように習得している英語というスキルが私には備わっていないため対等な関係ではなかったからです。

彼らはほかの生徒にも人種差別的な発言をするなど、人を外見だけで決めつけているのでした。

それでも、僕に歩み寄ってくれる生徒もたくさんいました。なぜなら、彼らは私という人間に興味を持ち、理解しようと同じ目線で対話を試みてくれたからです。

これは人同士だけではなく国家関係にもいえることです。歴史などから「あの国はこんなことをしたからわかりあえない」と勝手に決めつけてしまっているのも、いつまでも外交問題は解決されません。人も国も進化し続けています。過去をみるばかりでなく、現在の相手をみて話し合うことが必要です。

これらのことから私が考える平和な世界とは、みなが互いを理解し、対等な関係を築き上げられる、またそういった内面を重要視する教育が施される世界です。人類が多様である以上、完全に摩擦のない社会は存在しないでしょう。しかし、相手を尊重し対話を重ね、違いを受け入れる姿勢を人々が持ち続けられる限り、世界平和は実現可能です。